

第3学年普通科

シラバス (国語) 科

愛媛県立大洲高等学校

教科	国語	科目	古典探究	学年	3	類型	I・II
単位数	3	教科書	高等学校 古典探究	出版社	数研出版		
副教材	これからの古典文法 新明説漢文						

学習の到達目標

- (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。
- (2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

授業の概要

- ・本校では、学習の習熟の程度に応じて習熟度別編成を行い、わかりやすいきめ細かな授業を行います。どの講座も進度は同じですが、学習の習熟に応じ、指導方法などを工夫します。
- ・さまざまな時代やジャンルの古文や漢文の作品を取り上げ、古典に対する親しみを持ってもらうとともに、日本の言語文化への興味や理解を深めていくことを期待します。
- ・大学進学を見据え、古文と漢文の読解力の向上を目指します。そのために必要な文法や句法を丁寧に説明し、定期的な小テストにより、確実な学力の定着を図ります。
- ・多彩な古典作品を取り上げて、内容や構成・展開を把握し、共感したり想像したりする能力を高めて、言語感覚を磨くことを期待します。

評価の観点・方法

次の3つの観点に基づき、各学期ともに定期考査までの学習内容のまとまりごとに、下記の評価項目により観点ごと総括した評価結果を合計して、それを基に学期末・学年末に総括（評定）します。

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付け、伝統的な言語文化に対する理解を深めることができている。	「読むこと」の領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通じた先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで古典に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。
評価の対象	定期考査・課題確認テスト（小テスト）・授業時の観察	定期考査・単元テスト・課題作文・授業時の観察など	学習への参加状況・課題などの提出状況・振り返りシートなど
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・観点別学習状況は3段階で表し、3段階の表示は、A、B、Cとし、科目の目標に基づきその達成状況を「十分満足できる」：A、 「おおむね満足できる」：B、 「努力を要する」：Cとして評価します。 ・「評定」は、上記「観点別学習状況の評価」を総括し、その結果を5段階で表します。 <p>5 … 十分満足できると判断できるもののうち特に程度の高いもの 4 … 十分満足できると判断できるもの 3 … おおむね満足できると判断できるもの 2 … 努力を要すると判断されるもの 1 … 一層努力を要すると判断されるもの</p>		

年間学習計画

学期	単元	学習内容とねらい（内容のまとめりごとの評価規準）	定期考査
1 学期	随筆/二月つごもりごろに（枕草子） 逸話/三横 随筆/宮に初めて参りたるころ（枕草子） 日記文学/うつろひたる菊（蜻蛉日記） 小説/売鬼 日記文学/同僚女房評（紫式部日記） 史伝/伯夷・叔斉	<ul style="list-style-type: none"> ・「宰相の御いらへを……心一つに苦しきを」について、ここで作者が配慮していることは何か。説明する。 ・「なほ内侍に奏してなさむ」とは、誰をどのように評しているのか。説明する。 ・周処がなぜ心を入れ替えようとしたのか考える。 ・陸雲は周処にどのような助言をしたのかまとめる ・「竟」「終」「遂」の意味を調べる。 ・作者は中宮定子をどのような人物だと感じたか。説明する。 ・「葛城の神もしばし」という定子の発言の意図を考える。 ・周囲の女房たちはこの頃の清少納言をどのように見ていたか、本文をもとに話し合う。 ・作者と兼家との間にどのようなことが起こったのか、時間を追って整理する。 ・「嘆きつつ……」の歌を「例よりはひきつくろひて書いて、うつろひたる菊にさし」で贈った作者の気持ちについて話し合う。 ・本文に見られる鬼の特徴をまとめる。 ・宋定伯の知恵が読み取れる言動を整理する。 ・和泉式部・赤染衛門・清少納言について、作者はそれぞれどのような人物であるとしているか、まとめる。 ・伯夷叔斉の作った歌には、自分たちの運命に対するどのような気持ちが込められているか考える。 ・夏から殷、殷から周という王朝交代の経緯を調べてまとめる。 ・司馬遷は顔淵と盗跖を何の例としてあげているか説明する。 ・「天道是邪非邪」には、司馬遷のどのような気持ちが込められているのか考える。 	1 学期 中間考査 1 学期 期末考査
2 学期	物語/車争ひ（源氏物語） 史伝/廉頗・藺相如 歴史物語/村上天皇と安子（大鏡） 史伝/荊軻 歴史物語/最後の除目（大鏡） 文章/捕蛇者説 評論/文（無名草子）	<ul style="list-style-type: none"> ・六条御息所・葵の上・光源氏の従者たちの言動が描写された箇所をあげて、その内容を説明する。 ・藺相如が秦に着いたとき、秦王はどのような応対をしたか、それに対し藺相如はどのような行動で対抗しようとしたか説明する。 ・廉頗は最初、藺相如をどのように思い、どのような態度をとったか、藺相如は廉頗に対してどのような態度をとったか、理由とともにまとめる。 ・この逸話に由来する成語は、現在どのような意味で使われているか調べる。 ・本文中の指示語の内容を説明する。 ・安子の言動を整理し、その人柄を考える。 ・村上天皇の安子に対する思いを考える。・荊軻が秦王暗殺になかなか出発しなかったのはなぜか、まとめる。 ・易水での歌には荊軻のどのような気持ちが込められているのか考える。 ・荊軻が秦の宮殿で秦王に献上したものは何か、まとめる。 ・秦王は荊軻の最初の一撃を免れたのに、なぜ殺されそうになったのか、理由をまとめる。 ・本文から兼通が心の中で思っている部分を抜き出す。 ・語り手である侍の意見・判断が述べられている表現を抜き出す。 ・兼家と兼通が帝のところに参上した理由を、それぞれ説明する。 ・蔣氏が涙を流したのはなぜか、考える。 ・村人の生活と蔣氏の生活の違いをまとめる。 ・柳宗元はなぜこの文章を執筆したのか、考える。 ・文の「めでたき」ところはどのようなところか、まとめる。 ・「文字」を持つことの意味について、具体的な体験談を交えながら、自分の考えをまとめる。 	2 学期 中間考査 2 学期 期末考査
3 学期	漢詩/古体詩 評論/行く春を・岩鼻や（去来抄） 総合演習	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの古体詩について、一句の字数、一首の句数、押韻がどうなっているかを確認、対句表現を抜き出す。 ・「行く春を……」の句について、尚白・芭蕉・去来はそれぞれどのように考えているか整理する。 ・「岩鼻や……」の句を、芭蕉・去来それぞれの解釈に従って現代語訳する。 	

第3学年普通科

シラバス (国語) 科

愛媛県立大洲高等学校

教科	国語	科目	文学国語	学年	3	類型	I型
単位数	3	教科書	新編 文学国語	出版社	大修館		
副教材							

学習の到達目標

<p>(1) 国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図ることができる。</p> <p>(2) 文学的な文章に親しみ、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、創造的に考える力を養うとともに、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりするようになる。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深め、生涯にわたって読書に親しみ、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養うことができる。</p>

授業の概要

<ul style="list-style-type: none"> ・国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てます。 ・小説の読解を中心にしつつ、随想や「書くこと」の学習なども選択的に扱います。文学的な文章を味わい、我が国の言語文化への理解を深める学習を行うことを目標とします。 ・文学的文章を読むための基礎的スキルを確実に育み、また、小説のほかに随想・評論もバランスよく読むことを重視しています。すべての文章を楽しむ姿勢を身に着けることを期待します。 ・我が国の言語文化に対する幅広い知識や教養を活用する資質・能力について、満遍なく身につけることができます。

評価の観点・方法

次の3つの観点に基づき、各学期ともに定期考査までの学習内容のまとめごとに、下記の評価項目により観点ごと総括した評価結果を合計して、それを基に学期末・学年末に総括（評定）します。

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 ・文学的な文章を読むことを通じて、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品に興味を持ち、登場人物の心情を理解したり作品の背景について考えを深めたりしようとしている。 ・作品に興味をもち、自分と比較しながら作者の感性を捉えようとしている。
評価の対象	定期考査・課題確認テスト（小テスト）・授業時の観察	定期考査・単元テスト・課題作文・授業時の観察など	学習への参加状況・課題などの提出状況・振り返りシートなど
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・観点別学習状況は3段階で表し、3段階の表示は、A、B、Cとし、科目の目標に基づきその達成状況を「十分満足できる」：A、「おおむね満足できる」：B、「努力を要する」：Cとして評価します。 ・「評定」は、上記「観点別学習状況の評価」を総括し、その結果を5段階で表します。 <p>5 … 十分満足できると判断できるもののうち特に程度の高いもの</p> <p>4 … 十分満足できると判断できるもの</p> <p>3 … おおむね満足できると判断できるもの</p> <p>2 … 努力を要すると判断されるもの</p> <p>1 … 一層努力を要すると判断されるもの</p>		

年間学習計画

学期	単 元	学習内容とねらい (内容のまとめりごとの評価規準)	定期考査
1 学期	【1】 1 明日をひらく 少なくとも最後まで歩かなかった。 そとみとなかみ	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者が大切だと考えていることを読み取り、理解する。 ・筆者の考えと比較しながら、自分の生き方について考えを深める。 ・筆者のいう「外側」と「内側」を理解し、外側と内側の関係について考える。 ・「外側と内側」のように物事を対比してとらえ、認識を深める。 	1 学期 中間考査
	2 小説を楽しむ ナイン 4 名作を読む 山月記	<ul style="list-style-type: none"> ・場面の設定の仕方を通して登場人物の心情を考える。 ・情景描写の効果を考えながら読む。 ・登場人物の生き方から、自分自身の生き方に関する考えを深める。 ・漢文訓読調の文章の魅力を味わう。 	1 学期 期末考査
2 学期	【2】 1 心を見つめる クルミの小部屋 2 小説を楽しむ 待合室 3 文化を感じる 夏の月 古典の世界 5 能登殿最期 四面楚歌	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者の家族観や、家族間の心情の機微を読み取る。 ・文体の特徴や比喩の効果について考える。 ・登場人物の視点や表現の特色に注目し、その働きを意識しながら読む。 ・登場人物の考え方をとらえ、自分の考えと比較しながら自分の考えを広げる。 ・筆者の考える夏の月の良さをとらえる。 ・引用された作品を読み、解釈を深める。 ・能登殿の描かれ方をとらえ、読みを深める。 ・漢文の表現に着目し、項王の心情を読み取る。 	2 学期 中間考査
	6 名作を読む ころも	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の生き方から、自分自身の生き方に関する考えを深める。 ・優れた表現に触れ、読み味わう。 	2 学期 期末考査
3 学期	7 文学を生み出す 私たちの黄色 タイムリミット 書齋	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな小説を読み、構成や表現の工夫を読み取る。 	

第3学年普通科

シラバス (国語) 科

愛媛県立大洲高等学校

教科	国語	科目	論理国語	学年	3年	類型	普通科
単位数	2	教科書	論理国語	出版社	数研出版		
副教材	論理国語準拠ワーク						

学習の到達目標

<p>(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。</p> <p>(2) 論理的, 批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>
--

授業の概要

<ul style="list-style-type: none"> ・多彩な論理的文章や実用的文章に触れることで、論理的な思考力や多角的な視点を身に付けることを目指します。 ・論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、本文の内容（作者・筆者の意図）を的確に理解する力を育成します。 ・基本的な言語事項の習得を重視し、語彙力（漢字・慣用表現など）を豊かにすることを目指します。 ・科目の目標を踏まえつつ、折に触れて様々な言語活動を行います。それらの活動を通して、皆さんに高校生としてふさわしい「話す力・聞く力」や「書く力」といった表現力を育成します。

評価の観点・方法

次の3つの観点に基づき、各学期ともに定期考査までの学習内容のまとめりに、下記の評価項目により観点ごと総括した評価結果を合計して、それを基に学期末・学年末に総括（評定）します。

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。
評価の対象	定期考査・課題確認テスト（小テスト）・授業時の観察	定期考査・単元テスト・課題作文・授業時の観察など	学習への参加状況・課題などの提出状況・振り返りシートなど
備考	<p>・観点別学習状況は3段階で表し、3段階の表示は、A、B、Cとし、科目の目標に基づきその達成状況を「十分満足できる」：A、 「おおむね満足できる」：B、 「努力を要する」：Cとして評価します。</p> <p>・「評定」は、上記「観点別学習状況の評価」を総括し、その結果を5段階で表します。</p> <p>5 … 十分満足できると判断できるもののうち特に程度の高いもの</p> <p>4 … 十分満足できると判断できるもの</p> <p>3 … おおむね満足できると判断できるもの</p> <p>2 … 努力を要すると判断されるもの</p> <p>1 … 一層努力を要すると判断されるもの</p>		

年間学習計画

学期	単元	学習内容とねらい（内容のまとめりごとの評価規準）	定期考査
1 学期	1 文化の認識 「いき」の美学 「文化が違う」とは何を意味するのか？	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者が述べる「二重構造」「いき」の内容を理解している。 ・日本人の美意識について考察する。 ・「新しい普遍性」という表現に込められた筆者の意図を読み取り、自分の生活と関連づけて考察する。 	1 学期 中間考査
	2 社会の枠組み 人はなぜ働かなくてはならないのか	<ul style="list-style-type: none"> ・労働を「アイデンティティを承認されるための必須条件」とする筆者の主張を具体的に理解している。 ・「労働」についての自分の考えを根拠とともに論述できる。 	
	3 情報と知性 メディアのテロル 人工知能はなぜ椅子に座れないのか	<ul style="list-style-type: none"> ・「物語」と「情報」の対比構造を理解している。 ・メディアとしての文字、音声、画像などの特色をとらえて、その有効性や問題点を話し合うことができる。 ・筆者の主張を踏まえて、「弱い人工知能」とは何か考察する。 ・「『生命』の発展にとって必要な技術」について説明できる。 	
2 学期	4 環境と人間 意志と選択	<ul style="list-style-type: none"> ・「意志」と「選択」についての筆者の問題提起と主張を理解している。 ・意志と選択を混同している例を具体的に考察する。 	2 学期 中間考査
	環境と心の問題	<ul style="list-style-type: none"> ・機械論的自然観、原子論的な還元主義といった哲学的概念の内容を理解している。 ・「物心二元論」について起源や考え方を詳しく調べ、現代社会における功罪について話し合うことができる。 	
	エコロジーのミューズ を求めて	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者の主張の根拠を、文章の構成や展開を踏まえて読み取り、「エコロジー」について自分の考えを深めることができる。 ・筆者が「真の生態学的叡知」と表現する内容を具体的に考え話し合うことができる。 	
	5 思索の深化 顔の所有	<ul style="list-style-type: none"> ・論の展開をふまえ、筆者の主張の根拠をまとめることができる。 ・引用という表現技法の働きを引用以外の文章との関連性から理解している。 	
	無常ということ	<ul style="list-style-type: none"> ・「美」や「無常」について筆者はどのようなことを言おうとしているのかを具体例を手がかりにとらえ、考察する。 	2 学期 期末考査
3 学期	6 物語と表現 本歌取り	<ul style="list-style-type: none"> ・本歌取りの表現手法の内容について理解を深め、本歌取りについての筆者の考えを読み取ることができる。 ・先人の作品を現代の読者に喚起する表現の例を具体的に考えて文章にまとめ、発表することができる。 	
	総合演習		